

AutoExe

オートエクゼ ブレーキライン 取付け及び取り扱いマニュアル

部品番号	MLY540
登録番号	
車名 車種	マツダ MPV
型式(グレード)	DBA-LY3P (2300cc 23F/23C/23T)
備考	全車対応
取付け上の注意	※取付け方法、レイアウトが一部、補正と異なります。当マニュアル内にある取付け説明書に従って、正しく装着して下さい。

※ 当製品をお買上げいただきまして誠にありがとうございます。
 ※ 取付け作業を始める前に必ず当マニュアルをお読みください。
 ※ 当マニュアルは製品説明書も大切に保管して下さい。又、当製品を修理する際には製品と共に製品説明書・マニュアルも一緒に確認して下さい。
 ※ 当製品はノーマルの車両を基準にデータ取りをしております。損傷にたいたい、ホイールを交換した車両や、車高及びサスペンションを調整した車両に取付けますとトラブルの原因となる可能性がありますのでご注意ください。

オートエクゼブレーキラインは、各車種(型式別)に専用で設計されていますので適合外の車両(型式)には取付けできません。十分に注意して下さい。

警告

- オートエクゼブレーキラインは取付け禁止部品です。
- オートエクゼブレーキラインの組み付けは、認定工場での実施のある専門員で行って下さい。
- 組み付け不良、ニアミスなどによるクレーム及び修理・取替による損害について、当社は一切の責任を負いません。

警告 オートエクゼブレーキラインは、右側車(運転席側)専用で設計されていますので、取り付ける前に、ブレーキラインの取付け位置を確認しているか必ず確認して下さい。

警告 オートエクゼブレーキラインは、右側車(運転席側)専用で設計されています。取付け位置以外の取付けや調整、加圧は絶対に行って下さい。

警告 オートエクゼブレーキラインは、ノーマルの車両を基準にデータ取りをしております。損傷にたいたい、ホイールを交換した車両、車高及びサスペンションを調整した車両に取付けますとトラブルの原因となります。必ず事前に確認し、十分にご注意ください。

警告 本ブレーキラインの取り付けは、「自動車メーカー取替用」に代って、取付工場の取付員にて取付け作業を行って下さい。

注意 取付後は、ブレーキローター、キャリパー、ブレーキディスク等が、高圧になっておりますので、十分に冷えてから作業を行って下さい。また、取付手帳をお読み下さい。

警告 取付後ジャッキアップする場合は、必ずメーカーの指定位置にてジャッキアップし、リジッドトラックも使用して下さい。ジャッキアップ時はエンジン停止し、安全確認後必ず水平な場所で行って下さい。

警告 取付後フロントアップする時は、必ずメーカーの指定位置にてフロントアップし、必ず安全確認を行って下さい。

注意 本製品は取付後取り付けるために、取り付ける側の部品を保護し、取り付け後保護を撤去して下さい。

注意 本ブレーキホースを取り付ける前に、インターフェンダーブレーキホースを取り付け確認の作業が完了済みか確認して下さい。

警告 本製品は、一部取付位置が異なる車種、形状、取付け方法、レイアウトが異なる場合があります。必ず取付け位置を確認し、正しく取付けして下さい。

警告 取付時のボルト・ナットは「自動車メーカー取替用」に記されている指定工具、指定トルクで取付けして下さい。

注意 フレアナットを締め付ける時は、必ずメーカーの指定する専用工具を使用して下さい。

警告 フレアナット、バンジョーボルト(ユニオンボルト)の締め付けは規定トルク範囲の値に、必ずトルクを調整して下さい。

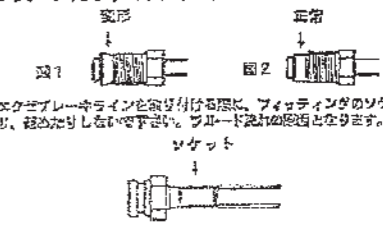
取付け作業を行う前に必ず以下の作業を行って下さい。

注意 取付後、Eリング(取付位置)は必ず付いた状態を確認し、再度確認しない下さい。取付後について必ず規定のクランプクリップ(ロックプレート)を付いた状態で取付けして下さい。

注意 バンジョーボルト(ユニオンボルト)・ウェイククリップ(ロックプレート)を両側用する場合は、必ず付ける前に必ず両側、両車を行い、両側の両方に必ず両側と調整して下さい。

注意 取付後必ず規定の位置に調整し、念のため取付位置・調整を行って下さい。

警告 フレアナットを締め付ける時は、必ず付いた状態を確認し、再度確認しない下さい。取付後について必ず規定のクランプクリップ(ロックプレート)を付いた状態で取付けして下さい。



警告 オートエクゼブレーキラインを取り付ける際に、フィッティングのソケット部分を傷めたり、破損したりしないで下さい。ソケット部分の破損は取付不良の原因となります。

警告 取り付け後、各部品が正しく取り付けられているか確認して下さい。また、スペアリングを確認した後にブレーキラインがタイヤ、サスペンション、ドライブシャフト等に接触していないか、確認を行い調整を行って下さい。

警告 エアホースの取付は必ずメーカー、取付位置によって異なります。「自動車メーカー取替用」に代って正しく行って下さい。特にブレーキアシスト、ABS、ALB対応の車両は、取付位置が必ず異なる場合がありますので必ず確認して下さい。

注意 取付後必ずブレーキペダルを踏んで確認して下さい。

注意 ブレーキペダルは必ずタイヤ等の取付位置を確認し、万一取付位置が正しく取付されていない場合は、調整を行って下さい。

注意 エアホースを接続する際はブレーキペダルクリーナー等を使用し、ローターキャリパー及びブレーキラインに付着したホコリを除去して下さい。

注意 ニン検作業時に行い、タイヤを取り付けた後に必ずスペアリングを左右に切りブレーキラインがタイヤ、ホイールと接触していないか確認して下さい。

注意 ノーマルホースと比較して取付位置が異なる場合があります。取付位置は必ず確認し、正しく取付けして下さい。

MLY540

※ 取付け作業を行う前に必ず以下の作業を行って下さい。

① FRONT RIGHT × 1

② FRONT LEFT × 1

③ REAR RIGHT × 1

④ REAR LEFT × 1

⑤ 鉄ワッシャー × 2

⑥ 中間止め × 4

⑦ ネオブレン管(1.8m) × 2

⑧ タイラップ小 × 12

⑨ タイラップ大 × 3

フロントブレーキホースの取付けについて

取付け作業を行う前に必ず以下の作業を行って下さい。

[1] 中間止め位置の確認

- 右側の位置に付属の中間止めゴムを固定します。その際、付属のタイラップ小を使用します。

[2] メスアダプター(ボディ側)の取付け

- (B)のメスアダプターを付属のブレーキホースホルダーにセットします。そして、フレアナットを仮締めします。
- ※ホルダーは直角になっていないと、しっかりとセットされていないと、ウェイククリップでの固定が出来ませんので注意して下さい。
- ※ 純正のウェイククリップを使用して、本体側ホルダーに固定します。
- ※ 仮締めしたフレアナットを、1.8~2.3kgf・mのトルクで締め付けます。
- ※ フレアナットの締め付けは、必ずフレアナットレンチ(専用工具)を使用して下さい。

[3] バンジョーアダプター(キャリパー側)の取付け

- (A)のバンジョーアダプターを付属のワッシャーと付属バンジョーボルトを使用して取付けます。
- ※ その際、右下の図を参考にホースがねじれないような角度で取付け、1.8~2.3kgf・mのトルクにて締め付けます。
- ※ キャリパーの回り止め穴は使用しません。

[4] 中間止めの固定

- [1]で取付けした中間止めをウェイククリップ(ア)を用いて、ストラットケースのブレーキホースホルダー(C)に固定します。
- その際、タイラップをタスキ掛けにしっかりと固定します。

注) 規定トルクでフレアナットを締め付けても、オイルにしみ・漏れ等が発生する場合には、フレアパイプ先端部分の形状が考えられます。正常にシールする際に、フレアナットの締め締め又は、フレアパイプの修正、交換を行って下さい。

リアブレーキホースの取付けについて

取付け作業を行う前に必ず以下の作業を行って下さい。

[1] 中間止め位置の確認

- 右側の位置に付属の中間止めゴム、ネオブレン管を固定します。その際、付属のタイラップ小を使用します。

[2] メスアダプター(ボディ側)の取付け

- (B)のメスアダプターを本体側のブレーキホースホルダーにセットします。そして、フレアナットを仮締めします。
- ※ホルダーは直角になっていないと、しっかりとセットされていないと、ウェイククリップでの固定が出来ませんので注意して下さい。
- ※ 純正のウェイククリップを使用して、本体側ホルダーに固定します。
- ※ 仮締めしたフレアナットを、1.8~2.3kgf・mのトルクで締め付けます。
- ※ フレアナットの締め付けは、必ずフレアナットレンチ(専用工具)を使用して下さい。

[3] バンジョーアダプター(キャリパー側)の取付け

- (A)のバンジョーアダプターを付属のワッシャーと付属バンジョーボルトを使用して取付けます。
- ※ その際、右下の図を参考に純正と同じ角度で取付け、1.8~2.3kgf・mのトルクにて締め付けます。
- ※ キャリパーの回り止めは使用しません。

[4] 中間止めの固定

- [1]で取付けした中間止めをウェイククリップ(ア)を用いて、ブレーキホースホルダー(C)に固定します。
- その際、タイラップをタスキ掛けにしっかりと固定します。

注) 規定トルクでフレアナットを締め付けても、オイルにしみ・漏れ等が発生する場合には、フレアパイプ先端部分の形状が考えられます。正常にシールする際に、フレアナットの締め締め又は、フレアパイプの修正、交換を行って下さい。